

# 大和朝廷成立への歩み

武光 誠

大和朝廷の誕生は、日本という国をまとめる動きの芽生えといえる重要な画期である。今回は大和朝廷成立より前の、吉備と出雲の重要な遺跡を取り上げて解説した。

紀元前一世紀末の北九州に、有力な遺跡が現れる。それは大陸との貿易で成長した小国と呼ぶべきものである。

それから二百年足らずで、出雲に有力な小国連合が現れた。荒神谷遺跡の358本の銅剣は、小国の首長が集まって祭祀を行ったことを示すものである。

さらにそれから2、30年あとに、吉備の橋築遺跡がつくられた。それは吉備全体の小国の上につつ、有力者を葬ったものとみてよい。

このような吉備の動向を受けて、紀元220年頃に大和朝廷が残したものとされる纏向遺跡がつくられるのである。

このあたりの歴史の詳細は、小著『日本の古代史 本当は何がすごいのか』（育鵬社刊）を参照されたい。